

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 117人 算数 118人 理科 116人

第5学年 国語 121人 算数 121人 理科 121人

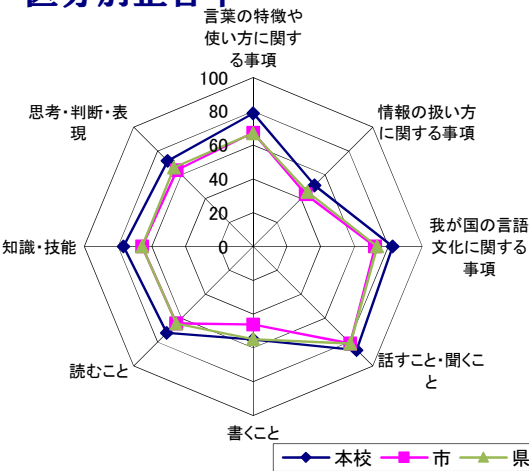
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.8	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	51.3	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	82.6	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	86.7	81.2	81.2
	書くこと	55.0	46.2	54.9
	読むこと	72.3	64.3	64.5
観点	知識・技能	76.7	65.7	65.7
	思考・判断・表現	71.6	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

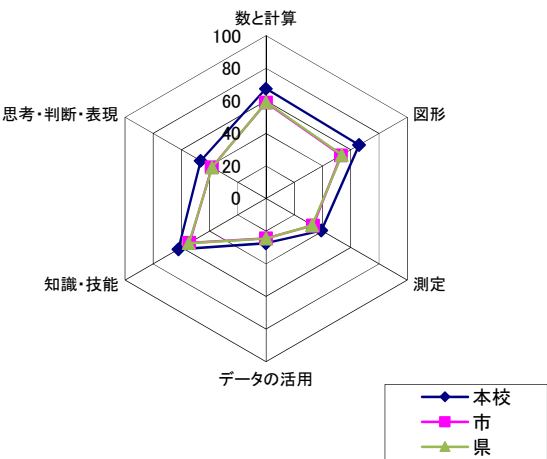
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は78.8%で、県平均と比べて11.7ポイント高い。 ○「岸」という漢字を正しく読む問題の正答率は77.4%、「旅」という漢字を正しく書く問題の正答率は71.3%と、県平均よりどちらも15～20ポイント以上高い。 ●「洋服」や「旅」という漢字の無解答率が10.4%ある。	・新出漢字を学習する際は、部首や画数に着目したり、熟語を使った例文を作ったりする機会を設けることで、学習内容の定着を図る。 ・漢字ドリルや小テスト、AIDリルを活用して反復練習を行うことで、適宜既習内容の確認を行う。また、自主学習での漢字練習を推奨し、意欲的に取り組んでいる児童を称賛して手本を示すことで、学級全体の漢字学習への意欲を高める。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は51.3%で、県平均と比べて5.6ポイント高い。 ●国語辞典の使い方を理解し、例文の適切な意味を選択する問題では、平均正答率を上回っているが、約半数の児童が誤答である。	・単元の導入に意味調べをするなど、国語辞典を使用する機会を意図的に設ける。国語辞典の使い方や語句の並び方など、基本事項について正しく理解できるよう定着を図ると同時に、言葉には様々な意味があることに目を向けさせる。 ・国語科だけでなく、他教科や朝の学習でも国語辞典に触れる機会を増やしていく。また語彙を増やすため、本や新聞などを読むように勧めていく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は82.6%で、県平均と比べて9.2ポイント高い。 ○漢字がへんとつくりなどから構成されていることを理解している児童が多い。	・単元学習において漢字や言葉に触れる機会だけでなく、日常的に活用する場面を設定することで、理解の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は86.7%で、県平均と比べて5.5ポイント高い。 ○4つ全ての設問において県平均を上回る。特に、参加者の発言内容に着目して、司会者の発言として適したものを選ぶ問題に対しては正答率が85.2%と高く、県平均より9ポイント高い。	・国語科で学習した「話し方」のスキルを常に意識できるよう、グループ活動の話し合いでは、相手に伝えたいことを明確にして話したり、相手の意見を大事なことを落とさずに聞いたりさせる。その際、互いの意見の共通点や相違点に着目させる指導を行う。 ・国語科だけでなく、他教科や校外学習等でも、相手の話の要点を正しく理解できるよう、メモをとる技術を高める指導を継続的に行う。
書くこと	平均正答率は55.0%であり、県平均と同程度である。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では県平均を大きく下回り、正答率は18.3%にとどまる。さらに、選択した解答のよさや、他の解答を選ばない理由を指定された段落に書くことができた児童は46.1%であり、県平均を下回る。	・国語科を含め、各教科等で「自分の考えを書く」活動を積極的に取り入れ、書くことに抵抗なく取り組めるようにしていく。文章作成の際には、国語科の説明文で学習したことを想起させながら、つながり言葉の使い方や段落構成の作り方に慣れさせていくことで段落の役割を理解させ、それらを活用する力を身に付ける指導の充実に努める。また、原稿用紙を用いた指導も積極的に行う。 ・問題文は必ず最後まで読んでから、問われていることを理解した上で取り組ませることを徹底する。
読むこと	平均正答率は72.3%で、県平均と比べて7.8ポイント高い。 ○文章を読み、話の内容に適切な解答を選ぶ問題の正答率は79.1%で、県の平均より16.6ポイント高い。 ●文章を読み、段落の内容ごとの分け方として適するものを選ぶ問題の正答率は46.1%で、県の平均より5.9ポイント低い。	・物語文では、叙述をもとに人物の気持ちの変化を捉えられるよう、気持ちを表す言葉に着目して場面の変化を意識できるような指導を続けていく。 ・説明文では、段落を意識させて文章全体の構成を捉える場を設定する。また、接続詞に着目した段落ごとの要点をまとめる活動を通して、各段落同士の結びつきを意識し、内容のまとまりを考えながら読み取る力の向上を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.5	58.9	59.2
	図形	65.8	53.0	53.7
	測定	39.2	33.1	32.6
	データの活用	27.4	24.4	24.6
観点	知識・技能	62.2	54.3	54.7
	思考・判断・表現	46.5	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

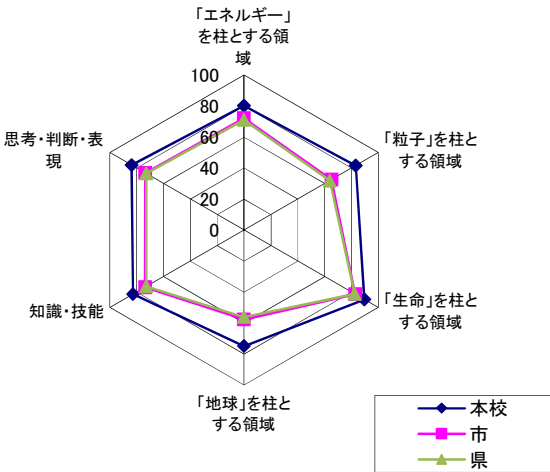
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は67.5%で、県平均と比べて8.3ポイント高い。 ○知識・技能、思考・判断・表現の観点別に見てどの問題も県の平均正答率を上回っており、特に2けた÷1けたの計算では、正答率が94.7%と高く、正確に計算することができている。ドリル学習等で計算練習に継続して取り組んでいる成果が見られる。 ●かけ算の仕方を説明する問題では、県平均を上回るものの12.4%と正答率が低い。	・今後も基礎基本の定着を図るため、学習プリントやドリル等を活用して、計算練習を繰り返すようにする。 ・立式する際に、図等を用いて乗法の計算の仕方を考え、説明する活動を取り入れることで基礎的な学習内容の確実な定着を図る。
図形	平均正答率は65.8%で、県平均と比べて12.1ポイント高い。 ○二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、二等辺三角形の性質を正しく理解することができている。 ●円の性質を利用して、正三角形を作図する問題では、県平均を上回るものの56.6%と正答率が低い。円の性質を理解し正確に作図をすることが苦手とする児童が多いと考えられる。	・図形に関する理解や考え方を深めるため、形を分類したり、作図したりする活動を積み重ねさせる。 ・具体物やデジタル教材等を活用し、図形に対するイメージをもたせるとともに、理解を深めるための補助としたい。また、形を敷き詰める活動や、仲間分けなどの具体物を操作する活動を通して、多面的な見方を育み、正しく作図ができるように個別指導を行う。
測定	平均正答率は39.2%で、県平均と比べて6.6ポイント高い。 ○地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求める問題では、県平均を10.1ポイント大きく上回る。 ●重さの単位を理解し、合計の重さの大小を比較する問題では県平均を上回るが、正答率は30.1%と低い。	・児童の身近にある問題を取り上げたり、算数科だけでなく普段の生活の中で重さを量ったり、長さを測ったりする体験を通して、実感的に質量を捉える機会を設ける。 ・実際にはかりを使って重さを量り目盛りを読み取る活動をしたり、和や差を使った計算問題を解いたりして習熟を図る。
データの活用	平均正答率は27.4%で、県平均と比べて2.8ポイント高い。 ○棒グラフを読み取り、2番目に多かった落とし物の数の種類を答える問題では、県平均より8.9ポイント高い。 ●示されたテーマに合うグラフを選び、その理由を説明する問題では、県平均より1.8ポイント高いものの、正答率は12.4%と低い。	・グラフをかき、読み取る技能の習得に加え、同じ表を異なる目盛りの付け方で表した複数のグラフを比較することで、目的に合った目盛りを用いる利点に気付く過程を重視した指導を行う。 ・算数科だけでなく、社会科や理科等で表やグラフを読み取る活動を意図的に設定する。どの部分に着目してどのように読み取ったのか、根拠を明確にした説明ができるように表現力の向上を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	80.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	83.2	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	89.6	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	74.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	82.8	73.8	72.8
	思考・判断・表現	83.8	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は80.2%で、県平均と比べて9.2ポイント大きく上回る。 ○実験の結果から風がものを動かすはたらきの変化を読み取る問題では、平均正答率が82.3%と県平均と比べて23.3ポイント大きく上回る。 ●磁石の性質のうち、おもちゃに利用した性質を推測することができるのかの問題については、正答率が6割程度と他の問題に比べて定着度が低い。	・授業の中で実験結果や資料(表やグラフ)から何が言えるかを自分で考えたり、話し合ったりする場面を多く取り入れることで、実験結果から考えられることを自分の言葉で表せるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は83.2%で、県平均と比べて19.3ポイント大きく上回る。 ○形を変えても重さは変わらないことについてよく理解している。 ●同じ体積でも種類によって重さが異なることについて問う問題の平均正答率は70.8%と県平均と比べて29.7ポイント大きく上回るが、他の問題と比べ、無解答率が3.5%と高い。	・単元の導入や終末において具体的な例を出し、学習内容を日常の場面と関連付ける工夫により、生きて働く知識を身に付けられるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は89.6%で、県平均と比べて7.2ポイント大きく上回る。 ○植物のつくり、昆虫のつくり等についてよく理解している。 ●虫眼鏡の使い方を身に付けているかを問う問題では、平均正答率は68.1%で、県平均と比べ13.4ポイント大きく上回っているが、他の問題と比べて定着度が低い。	・それぞれの器具の使い方のポイントを確認し、全員が使用しながら使い方を確かめる体験活動の機会を確保することで、技能の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は74.9%で、県平均と比べて18.7ポイント大きく上回る。 ○かげが太陽の反対側にできることや、かげふみ遊びの動きと結び付けて考えることができている。 ●方位磁針の正しい使い方を身に付けているかの問題については、正答率が7割程度と他の問題に比べて定着度が低い。	・基本的な学習内容について反復して身に付ける機会確保のためにICTを活用したり、実物を用いて体験する活動を年間を通して設定したりする指導の工夫により、理解の定着を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」についての肯定割合は71.9%で、県の肯定割合と比べ7.7ポイント高い。児童が家庭学習に意欲をもって取り組み、自主学習が習慣化している様子がうかがえる。友達の学習の仕方を紹介するなど、児童自らが計画・実行できるような家庭学習の方法を提示することで、家庭学習が充実するようにしていく。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」についての肯定割合は70.2%で、県の肯定割合と比べ5.9ポイント高い。授業や家庭学習で、本やインターネットを活用することが定着していると考えられる。一方で「疑問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい。」についての肯定割合は67.8%で、県の肯定割合と比べ3.9ポイント低い。今後は、本やインターネットから課題解決に必要な情報を見付けたり選んだりする方法を指導し、疑問や不思議に思うことを分かるまで調べられるようにしていきたい。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」についての肯定割合は98.3%で、県の肯定割合と比べ3.2ポイント高い。また、「家の人と学校でのできごとについて話をしている。」「家の人としょう来のことについて話すことがある。」についてはどちらも肯定割合が県の平均を上回っている。実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなど、児童が興味・関心をもって取り組める課題の設定や学習内容の明確化を図るとともに、家庭と連携しながら学習活動を進め、学びに向かう力を育成していく。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」についての肯定割合は55.4%で、県の肯定割合と比べ12.6ポイント低い。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」についての肯定割合は56.2%で、県の肯定割合と比べ12.5ポイント低い。復習することが基礎・基本の確実な習得につながることを理解していない児童が多いと考えられる。単元や学期末ごとに復習する機会を意図的に設けたり、宿題でテストの解き直しの問題に取り組ませたりするなどして、基礎的・基本的な学習内容の定着と意識の向上を図りたい。

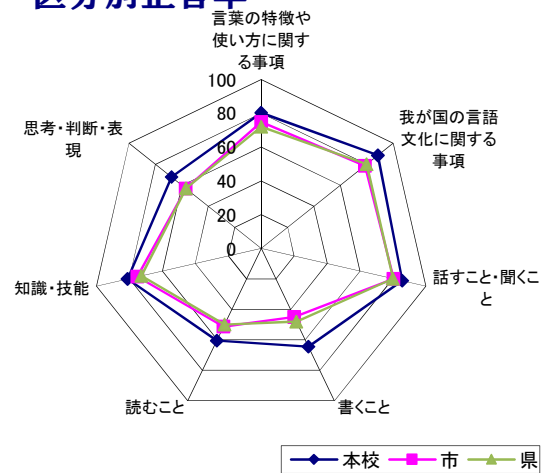
●「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」についての肯定割合は76.1%で、県の平均と比べ13.1ポイント低い。1時間の授業で何を学ぶのか見通しをもたないままに授業に臨んでいる児童が多いと考えられる。今後は、めあてを書くことを徹底させることで、児童が目指す姿をイメージして主体的に学習に取り組めるようにするとともに、1時間の終わりに学習の振り返りを書くことで、どんな学びができたかを振り返ることができるようにしていきたい。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」についての肯定割合は51.2%で、県の肯定割合と比べて7.8ポイント低い。自分一人で課題を解決するだけでなく、協働して課題に取り組む解決していく経験をさせることで、いろいろな解決の仕方を知り、どんな問題でもやってみようとする意欲をもてるようにしていく。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.3	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.4	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	85.7	80.4	80.0
	書くこと	64.5	45.1	48.0
	読むこと	60.5	51.3	50.0
観点	知識・技能	81.1	75.2	72.8
	思考・判断・表現	67.8	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

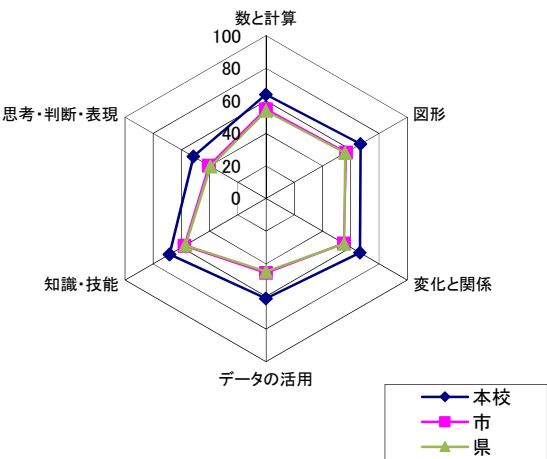
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は80.3%で、県平均と比べて8.3ポイント高い。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は、12.4%で、県平均と比べ2.7ポイント低い。 ○「兵隊」という漢字を正しく書く問題の正答率は74.4%、「勇ましい」という漢字を正しく書く問題の正答率も77.7%と、県平均よりどちらも20ポイント以上上回る。漢字は比較的良好に習得できている。	・物語や説明文を読み取る際には、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係に加え、文の書き出しと文末表現の関係などを含めた文の中の語句と語句との係り受けに注目させるなど、文の構成を捉える習慣を付けさせる。 ・自分で文章を書く際は既習漢字を漢字で書くよう声掛けし、教科書やドリルなどで読みや書き順などを自分で調べ、漢字を使う姿勢を育成する。また、「収める」「納める」「治める」「修める」などの同音異義語は、漢字のもつ意味を考えて使おうとする習慣を付けさせる。 ・自主学习などで漢字について調べている児童を称賛し、苦手意識がある児童にも興味をもたせるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率が88.4%で、県平均と比べて8.5ポイント高い。 ○慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題では、文章から状況を読み取り、適切な慣用句を選択できている。	・時代とともに言葉が変化してきたことに気付かせ、自分たちの言葉への関心を深めるとともに、言語文化としての古典に親しみ、受け継いでいく態度を育成する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は85.7%で、県平均と比べて5.7ポイント高い。 ○4つ全ての設問において県平均を上回る。特に、話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題については、正答率が93.4%と最も高く、県平均より10.4ポイント高い。	・話の目的は何か、相手に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなどを踏まえて、話の内容を十分に聞き取ることができるよう、聞く姿勢や態度も含め、適宜声掛けをして児童に「聞く」意識をもたせる。 ・自分の考えを広げたり、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめる際には、「～という意見もあったが」「～という考えもあるけれど」などの表現を用いるようにすることで、異なる意見を自分の考えに生かせるようにする。 ・朝の会でのスピーチなどを活用し、人前で要点をまとめて簡潔に話をする機会を充実させる。
書くこと	平均正答率は64.5%で、県平均と比べて16.5ポイント上回る。 ○4つ全ての設問において県平均を上回る。特に段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる問題と、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題については、正答率がどちらも63.6%と高く、県平均よりどちらも18.1ポイント高い。	・「序論―本論―結論」といった基本を押さえ、それぞれの段落にどのようなことを書けばよいのかを考えたり、自分の考えを一貫して述べたりすることなどに注目させながら作文指導を行う。条件を提示したり、文章構成のメモや学習の振り返りを生かしたりするような活動を取り入れる。 ・自分の考えたことなどが客観的な事象に裏付けられたものになっているかどうかを振り返る場を設定し、事実と考えを明確に区別して書くよう例示したりヒントを出したりするなど、教材や資料などを工夫して指導する。
読むこと	平均正答率は60.5%で、県平均と比べて10.5%上回る。 ○8つ全ての設問において県平均を上回る。特に、叙述を基に文章の内容を捉えることができるかどうかをみる問題については、正答率が49.6%と、県平均より17.4%高い。	・登場人物の直接的な心情の描写だけではなく、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されていることにも注意し、豊かに想像しながら読むことができるよう、意図的な発問や提示をするなど授業展開を工夫する。 ・文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えさせ、その際に叙述を基に、事実と感想、意見などとの関係を押さえることを意識させることで、文章全体の構成を捉える場を設定する。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.9	54.9	53.7
	図形	66.9	56.6	56.1
	変化と関係	66.5	55.1	55.2
	データの活用	61.2	45.5	44.8
観点	知識・技能	68.5	57.8	57.2
	思考・判断・表現	51.6	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

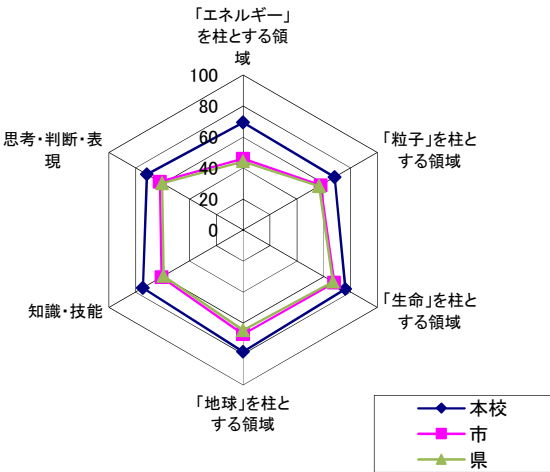
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	県の平均正答率と比べて10.2ポイント高い。 ○知識・技能、思考・判断・表現の観点別に見てどの設問も県の平均正答率を上回っており、特に概数については概要を理解し、目的に応じて見積もることができるかをみる問題は、県よりも22.8ポイント高い。 ●大きな数の表し方を理解しているかどうかをみる問題は、県と平均正答率が同程度であった。	・大きな数に関して、整数を10倍すると1桁、100倍すると2桁上がること、 $1 \div 10$ すると1桁、 $1 \div 100$ すると2桁下がる仕組みについて、位取りカードを用いることで視覚的に理解を図る。 ・わり算の性質について、わられる数とわる数それぞれを同じ数でわっても、そのまま計算した時の答えと変わらないことを具体的な数値を使って繰り返し体験することで、計算の工夫に利用できる練習を行う。
図形	県の平均正答率と比べて10.8ポイント高い。 ○平行四辺形の作図の問題では、作図の条件を十分に満たして解答できた割合が県の平均正答率より11.3ポイント高い。 ●三角定規の角度を利用して答える問題において、おのおの角がいくつであるかを正しく使って正答できた割合は、県の平均正答率より4.4ポイント高いが、正答率は5割にとどまる。	・三角定規の各角度を実際に測って量感をつかんだり、その数値を利用して問題を繰り返し解いたりして角度の理解を習熟させていく。 ・180度より大きな角の大きさを求める設問について、必要な角の大きさに対して2つに分ける加法のやり方と360度から除く減法のやり方について、どちらも答えは等しくなることも踏まえながら、実際の角度に合わせて繰り返し練習する。
変化と関係	県の平均正答率と比べて11.3ポイント高い。 ○割合の仕組みを問う問題では13.5ポイント、比べ方について差を用いる場面と割合を用いる場面を説明する問題においては15.2ポイントと、双方共に県の平均正答率を上回っている。 ●上記の差と割合の問題については正答率が44.6%で、正答率自体が全体の半分を切っている。	・比べ方について、差で見える見方と倍で見える見方についてテープ図に表すなどして視覚的に捉えられるよう工夫して指導する。 ・基準量、比較量、倍の関係を実物を効果的に用いたり図に置き換えたりして、そのぞれの数量と関係への理解を図る。
データの活用	県の平均正答率と比べて、16.4ポイント高い。 ○ほとんどの設問において、正答率は高く、県の平均正答率と比べても16～22ポイントと大幅に上回った。 ●折れ線グラフから数値を読み取り変化の様子を説明する記述問題では、正答率が11.6%、無解答率も29.8%である。	・グラフの数値が何を表しているか、数値は何か、どんな変化が分かるかなど、伴って変わる2つの量や一方が増えて他方は減る2つの量など様々な場面を用いながら、数多くの変化の様子を表すグラフに触れさせる。 ・2つの量の変化や比較して気付くことなどについて、口述する場面や文章化する場面を取り入れる。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.4	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	68.3	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	76.2	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	78.5	67.2	64.6
観点	知識・技能	74.7	60.8	59.2
	思考・判断・表現	71.7	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は69.4%で、県全体と比べて25.1ポイント大きく上回る。 ○乾電池のつなぎ方とその名称を理解しているかをみる問題では、平均正答率が74.4%であり、県平均より約13ポイント高い。 ●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える問題では、平均正答率が61.2%であり、県平均より30ポイント大きく上回り、簡易検流計についての理解は高い。しかし、正答率が約6割で無解答率も1割弱と、定着度が低い。	・既習の内容について、家庭学習や朝の学習タイムなどを活用して更なる定着を図る。 ・予想→実験→結果→考察の手順を踏んだ授業を展開していく。また、考察や振り返る活動を通して、科学的な思考を育てていく。 ・理科だけでなく他教科でも話し合い活動を取り入れ、深い学びにつながるようにする。 ・簡易検流計など実験器具の使い方や、器具が示した結果から分かることの理解を深めるため、実験を通して器具に触れることで理解の深度を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は68.3%で、県平均と比べて11.7ポイントと大きく上回っている。 ○同じこめた空気の変化について答える問題では、正答率が96.7%で県平均より12.6ポイント高い。また、エアコンで部屋全体の空気をあたためる方法を答える問題では、正答率が85.1%で県平均より13ポイント高い。 ●あわの正体と考えた理由を答える問題では、正答率が38.0%で県平均より8.2ポイント上回ったが、正答率が4割弱である。	・「粒子」の領域は、具体物としての提示が難しいため、視覚的に確認できるような工夫やICT機器を活用して、図や表に表したり、動画で確認したりするなどして、児童の理解を深めていく。 ・もののあたため方については、「あわ＝水蒸気」との認識がもてるようにICT機器と組み合わせた実験を行ったり、新たな実験方法を試したりしながら児童理解を高めるように工夫をしていく。また、日頃の生活の中での現象から児童の理解を高めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は76.2%で、県平均より9.3ポイント上回っている。 ○骨と関節の名称を答える問題では正答率が、90.1%を超え、県平均と比べて、9.1ポイント高い。 ●季節の順にならべたイチョウの記録を選ぶ問題では、正答率が62.8%であり、県平均と比べて、25.6ポイント高いが、正答率が約6割であり、定着度が低い。	・自然現象への気付きから授業で問題として取り上げたり、日常的に動植物との観察を増やしたり、理科以外の行事で自然に関わる活動を理科に結び付けよう指導を行ったりすることで、児童の理解を高めていく。 ・具体物の活用＝実感を伴った理解から共通点や差異点をとらえさせ、考えさせることにより、学習した用語についての定着度を上げていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は78.5%で、県平均より13.9ポイント高い。 ○排水口が低くなっている理由を選ぶ問題では、平均正答率が92.6%で県平均より5.1ポイント高い。また、水の流れる向きを選ぶ問題では、平均正答率が86.8%であり、県平均より6.2ポイント高い。 ●蒸発の名称を答える問題では平均正答率が60.3%で、県平均より2.7ポイント高いが、正答率が6割であり、他の問題に比べて正答率が低い。	・授業での学習が生活のどのような場面で利用されているかを振り返ったり、活用したりすることで理解を深める。 ・児童がイメージをもちやすくなるように、具体物を使った観察、実験を行い、さらにICT機器を使って動画や画像で確認するなどして、知識・理解の向上に努める。

宇都宮市立泉が丘小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の項目について、県の肯定割合と比べて18.5ポイント高く、自主学習が定着してきた様子がうかがえる。

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」や「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の項目について、県の肯定割合より高く、学習に対する前向きな気持ちが見られる。授業を進めるにあたり、より興味関心が高まるように身近な題材から課題を取り入れたり、問題解決的な学習を取り入れたりするなど、自力解決の場面を設け、学習が生活の中で役に立つという意識を高めることができるようにしたい。

○「自分には、よいところがあると思う」の項目について、県の肯定割合より1.4ポイント高い。安定した学校生活の中で自分自身のよさにさらに気づき、高めることができるよう、今年度の重点合言葉「見つけよう自分の『いいね』」広げようみんなの『いいね』」に関する内容を様々な教育活動に取り入れて称賛の機会を作ったり、教師からの声掛けをしたりすることで、自己肯定感・自己有用感を高められるよう支援したい。

○算数、国語、理科、社会の授業で「授業の内容がよくわかるか」という項目について、県の肯定割合よりいずれも高かった。本学力調査においても調査実施の教科の平均正答率が県を上回っている。今後も本校が実践している教科担任制や少人数学習を通して、「わかった」「できた」と感じることができるような授業を展開していきたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の項目について、県の肯定割合より高い。引き続き安定した学校生活の中で自分自身のよさにさらに気づき、高めることができるよう、称賛の機会を作ったり、教師からの声掛けをしたりすることで、自己肯定感・自己有用感を高められるよう支援したい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の項目について、県の肯定割合より低い。授業中にだけでなく普段の生活でも授業のことについて質問ができるように児童とのコミュニケーションを大切に、質問ができる雰囲気づくりをしていきたい。

●「しょう来のゆめや目標をもっている」の項目について、肯定割合は85.1%で県の肯定割合と比べて3.9ポイント低い。。日頃から活動の際には目標をもって活動させるようにしたり、道徳やキャリアパスポートを通して、ゆめに対して考える時間を設けたり充実させたりすることで、将来の自分についての期待感を高めさせたい。

●「総合的な学習は好きですか」についての肯定割合が県や市を下回っている。「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・考えの更新」などの能力が児童に定着するような取り組みを考えていきたい。また、教師だけの支援・指導ではなく、個人で見直したり、友達からアドバイスをもらったり、保護者や地域の方に支援をいただいたりなど多様な方法をとることで、総合的な学習のよさを実感させ、学習に対しての意欲を高め、肯定割合を増やしたい。

宇都宮市立泉が丘小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思考力・判断力・表現力等の育成	「自分の考えを書く活動」の習慣化や、それを基に「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動の充実。	多くの教科で「思考力、判断力、表現力」を問う正答率が「知識・技能」を問うものよりも低い。が、「話し合い」の目的を正しく理解したり、意見を比べながら自分の考えをもったりする力を問う問題では、県の平均正答率を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
思考力・判断力・表現力等の育成	物事の中から問題を見だし、解決方法の見通しをもちながら、筋道立てて考え問題を解決していく過程を重視する指導に取り組む。	学習課題の中から、具体的に何が問題で何をすべき必要があるのか情報を分解し整理する時間を十分に取、児童に課題解決の見通しをもたせる。また、児童が課題解決のために主体的にコミュニケーションをとる過程を称賛し、考えを広げたり深めたりする支援を行う。